

Timber Dentistry 木の歯科

計画地となる大正住宅博覧会が開催されたこの「周辺地区」は、現在でも閑静な住宅地としてその文化を受け継ぎ、この地区の主要な中央線（前面道路）に沿った桜並木が印象的な場所である。約 11ヶ月の四季を通じて、現地あるいは周辺の調査、街歩きを繰り返すことで私たちが感じとってきたのは、老朽化した住宅の空き家が目立ち、放置された人工林の木が枯れ、この前面道路に面する沿道には、コンビニエンスストアや大型テナントの薬局、スーパーが立ち並びつつある状況であること。そして現代の生活者には欠かせない日常生活や暮らしを重視した利便性が求められ、これから変容していく市街地のように感じていた。それでも、この地区に幸うじて残る閑静な住宅地としての品格を保守しながら、現代の生活者にも親しみが得付くような医院となしてほしい。これからの将来を数十年単位で見たときに、この場所からその歴史が同えるような街の発展性を担う、環境のリノベーションとなるような建築への実現化を試みた。



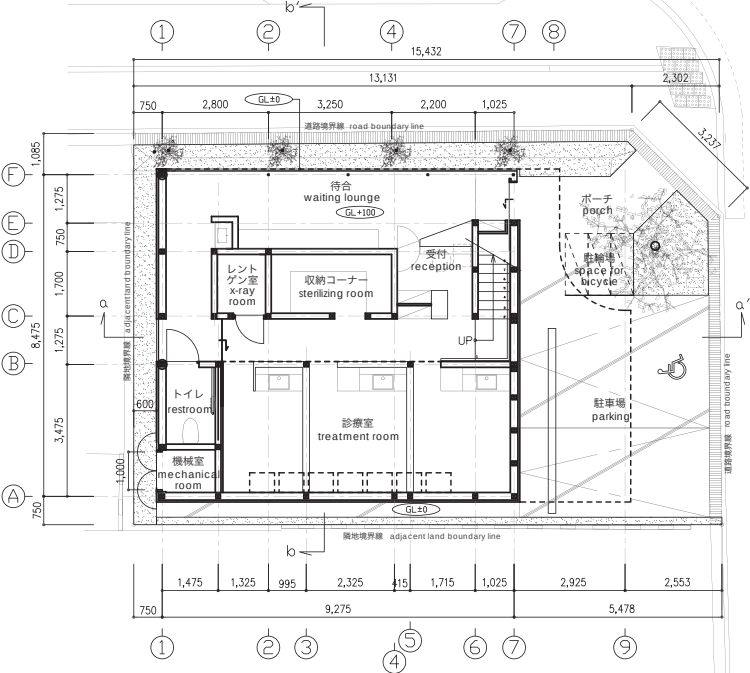
更地となっていた取得用地から、旧来この地の周辺に建っている建築の形態を手かりに、隣接する建物との調和を図り、切実に似た家型の西立面を立ち上げた。この形態から東立面へ、丘陵に沿って弧を描いて流れるモダニズムを思わせる屋根をつないでいくことによって、住宅街の中でよく見られるかたちでありながら、そのどれでもないものになり、建物のかたちは抽象化されて形態の意味を消す。外壁は白石灰モルタルと板張りによ、自然素材の外装が親しみを与え、桜並木の街路に白いキャンパスとなって、街の緑や人々の生活の背景とした。

北側道路沿いである保全しづらい環境の下に新しい木を植えるよりも、その足元に縁を配し、歩行者の目線の1階レベルには、この建築を支える木質構造を魅せ、前面道路に沿った箇所には、透明性を高めるガラスを使用した。これによって、内部の木質が「街並みになじみ、植樹によって緑被率を高めるのではなく、この建築空間そのものが、外部の桜並木の通りを引き立てるような内部空間と外部空間が一体となる計画を目指した。「木は、その周囲を爽やかにも晴れやかにもする。」小規模な建築においても歴史的なコンテクストを保全しながら街が発展する、ひとつの再生手法とすることを計画の意図としている。

内部空間を見る
建築の領域となる端部に大きな開口部を配することで、光によって空間のエッジをつづっている。上部には、8の字状に連なりながら連続して変化する木造トラス構造。右側の内壁部分は、9mmと12mmの天然木杉板本実材をランダムに配し、陰影を表現している。



構 造	規 模
主体構造：木造	敷地面積：155.92㎡
基礎：べた基礎	延床面積：144.23㎡
階数：地上2階建て	軒高：5.90m
	階高：3.30m
	天井高：2.60m
	建築面積：97.29㎡
	各階床面積：1階 95.97㎡ 2階 48.26㎡
	建築率：62.40%（許容 70%）
	容積率：92.50%（許容 200%）



1 階平面図
1F Plan scale=1:200
入り口から待合を介し診療室へとアクセスするバリック動線と、受付よりそのまま上階へと通じるプライベート動線にも考慮しながら機能諸室を配している。

施工説明

小屋組みの基本形状は、ふたつの棟のスベに頂点がずれた切妻形状のダブルトラス構造。ソーバイフォーの規格材をカットし、材をそれぞれ挟み込むように二枚づつ計 4 枚を重ね、ビス（リネード）で接合している。また、在来軸組み工法による流通材とフレット材を主に用いながら、特殊なつくり方ではなく、普遍的で一般的な在来工法の延長のつくり方ができるように配慮している。

梁と小屋組みの仕口。

めり込みの貼り強さに期待。

小屋組みである木の架構を人力で組み上げていく。

小屋組みの接合を見る。妻側上端部（小屋組み上部）の三次曲線は、カンナによる削り出し。

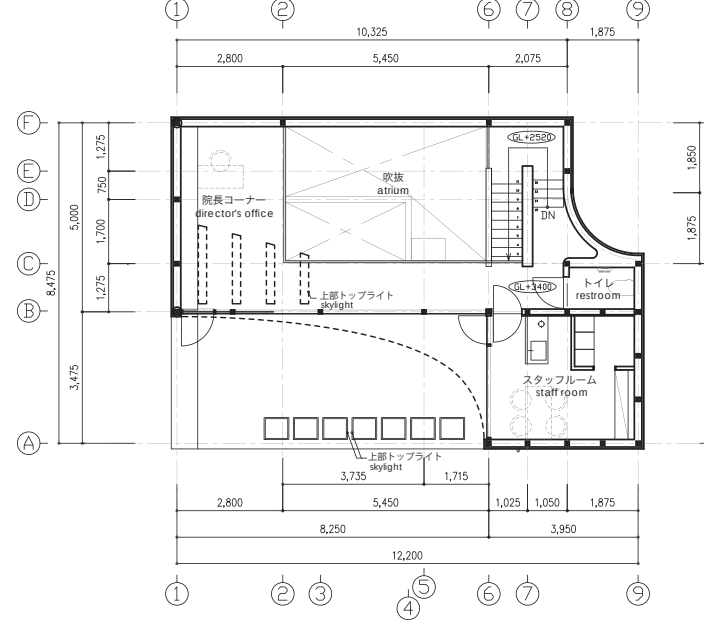
主な外部仕上げ
屋根：ラスモルタルt-30 下地 断熱塗料塗布の上 亀裂自閉性FRP防水t-2.5 非水分散型アクリル樹脂塗材吹付仕上
外壁：ラスモルタルt-30 下地 断熱塗料塗布の上 亀裂自閉性FRP防水t-2.5 非水分散型アクリル樹脂塗材吹付仕上 天然木板本実貼りt-12の上 建築用シリル化フッ素樹脂塗料（クリアー）吹付仕上
開口部：スチールサッシュ（焼付塗装）、高透過透明ガラス

主な内部仕上げ
1階 床：石灰（白色）コンクリート金コデ押え
壁：構造合板t-9 下地の上 天然木杉板本実貼りt-12.9 木質ワックスクリアー生地仕上
天井：天然木小屋組下地 木質ワックスクリアー生地仕上
2階 床：構造用合板の上、フェルトt-20 下地 カーペットt-10仕上
壁：木軸下地、石膏ボードt-12.5貼、寒冷紗パシゴキの上 VEPローラー塗
天井：天然木小屋組下地 木質ワックスクリアー生地仕上

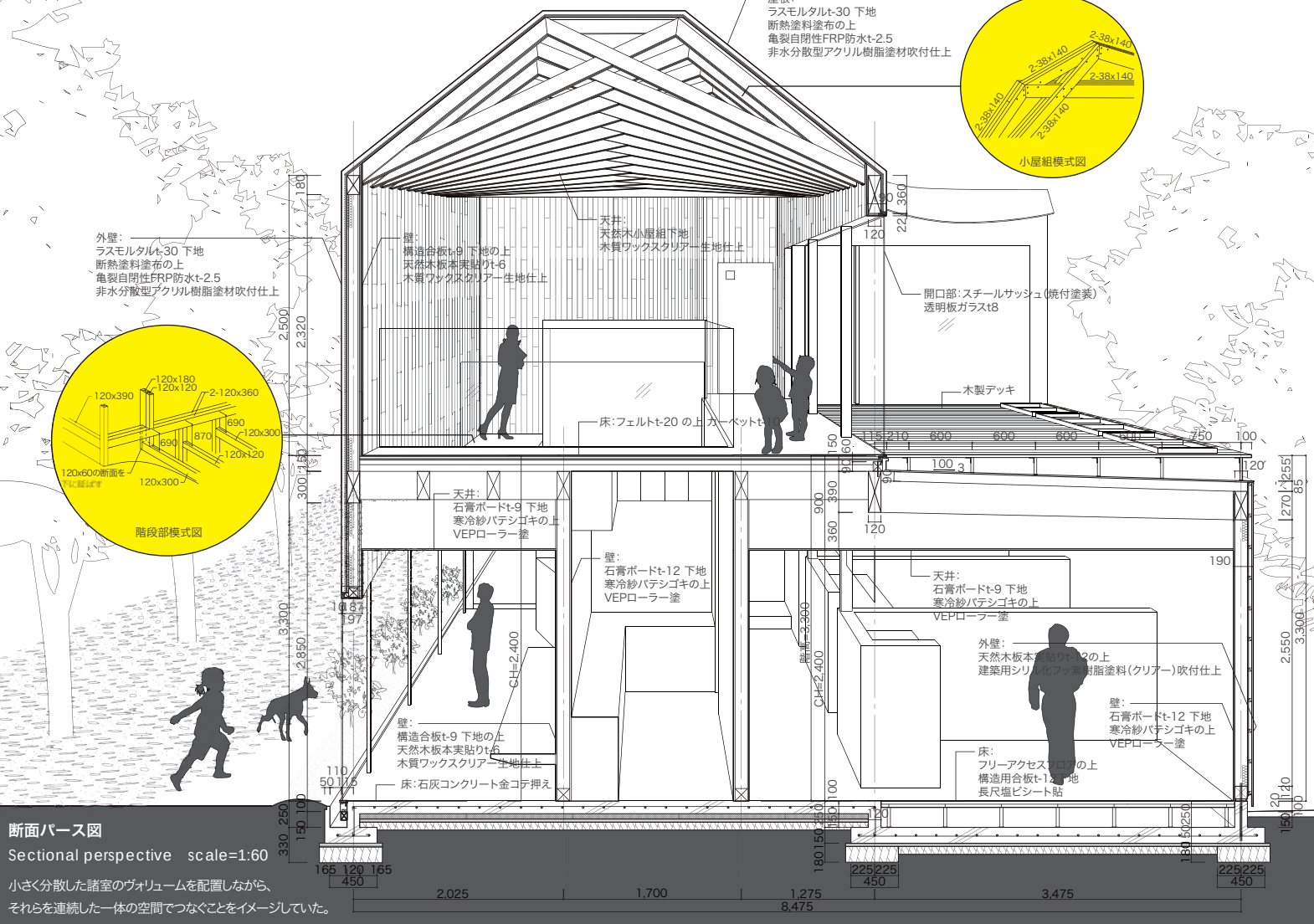
外 構
植栽：ヤマモモ、レモン、カンチク、タマリウ 舗床：土間カラーコンクリート（石灰入）金コデ押え



正面を見る
歩道に面した高さまでは、透明なガラス越しに外を歩いている人たちは内部を望め、この内部の木質が街並みになじみ、そして縁縁をもつ白い建築ヴォリュームは、空に馴染むように、すーっと、建築が景色に消えていく。
駐車スペースよりエントランスを見る
約 3m 張り出した木造のキャノピー。木の外壁部分は 9mm と 12mm の天然木板本実貼りに透過性シリル化フッ素樹脂（クリアー）が塗布されている。
デッキ庭を道して隣家を見る
隣家の軒先の高さにより、この建築の 1 階レベル（高さ）を決定している。隣接した建物の屋根の瓦や樹木にとつもの見方を与え、その抽象化という作業から周りの環境との間に一種の距離間を生み出している。



2 階平面図
2F Plan scale=1:200
吹き抜けを介したワンルームのような、一体的な空間の便われ方を目指したのと同時に、屋外の庭や外部空間との連なり方から、様々な部屋や機能が同時に並行して利用することを可能にした。



断面パース図
Sectional perspective scale=1:60
小さく分散した諸室のヴォリュームを配置しながら、それらを連続した一体の空間でつなぐことをイメージしていた。



北側から見る
白い建築ヴォリュームは、形態スタディを重ねた結果、西側隣家の切妻立面を平面にトレスしたかたちから、東側の機能諸室につないでいく方法で決定している。